



黒木地区振興計画書



みんなで築こう
住みよいまち
くろぎ



平成26年3月
黒木地区自治運営協議会

目 次

I	計画の策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
II	「黒木」という地名の由来・・・・・・・・・・	P 2
III	黒木地区の成り立ちと広がり・・・・・・・・・・	P 2
IV	黒木地区の概況・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2～4
V	アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5～P 12
VI	現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13～P 17
VII	基本施策と具体的な取組み・・・・・・・・・・	P 18～P 22
VIII	自治運営協議会役員及び振興計画策定作業チーム名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・	P 23

黒木地区振興計画書

I. 計画の策定にあたって

旧黒木町では、少子・高齢による過疎並びに核家族化の進展による地域間の結びつきが弱体化し、人々が協力しながら地域を運営していくという自治本来の気風もかげりをみせていたことや、地方交付税や地方税等の減少により財政的に厳しいかじ取りを迫られ町施設の民営化、補助金の見直し、さらには職員の削減等が進められていました。このため、住民の多様なニーズに応えることが徐々に厳しい状況になり、この対策として、町では平成19年7月に地域自治確立検討委員会を設置し、自治組織の確立について検討が行われました。

その結果、「行政が行うこと」、「行政と地域の協働で行うこと」、「地域でできること」に分け、地域住民と行政が協働した取り組みを行うために、行政区を越えた範囲で自治運営組織を立ち上げることになりました。

黒木地区では、平成20年2月に区長、分館長、女性の会等で構成された設立準備会を立ち上げ、設立に向けて検討が重ねられました。自治運営協議会の目的である「地域と行政の協働による豊かな地域」を実現するため設立されました。

その後、黒木町は平成22年2月1日に八女市へ編入合併となりましたが旧八女市でも、合併前から小学校区域を範囲とした「校区まちづくり協議会」が、また、合併した他の町村も同様の組織が設立されており、黒木地区自治運営協議会はそのまま新八女市になっても引き継ぐことになりました。

新八女市では、平成23年度に、平成32年度を目標年次とした今後10年間の基本構想と、「第4次八女市総合計画」を策定しました。その中の第6章の2項に、「地域コミュニティの育成」、「地域団体の連携の推進」を主要施策とした「地域を支えるコミュニティが自立したまちをつくる」という、市のまちづくりに対する考え方が示されています。

それを基に、市から、各協議会に対して、10年後を見据えた振興計画を策定するよう要請があり、黒木地区自治運営協議会でも平成24年度に、18歳以上の黒木地区の住民の方にアンケート調査を実施し、その結果やいただいた意見を基に、黒木地区住民の方がより良い環境で生活できるように改善していくためにこの振興計画を作成しました。

Ⅱ．「黒木」という地名の由来

黒木の地名は、鎌倉時代の初め、黒木助能が矢部川と笠原川の合流地点の内側大字北木屋字城山の地に猫尾城を築き近郷を始め、一帯を黒木と称したことに由来し、中世の山城のふもと集落に端を発したとあります。（黒木町史より）

Ⅲ．黒木地区の成り立ちと広がり

明治21年に「市制及び町村制」が公布され、黒木町、今村、桑原村が合併し黒木町となりました。これが黒木地区の基盤となっています。

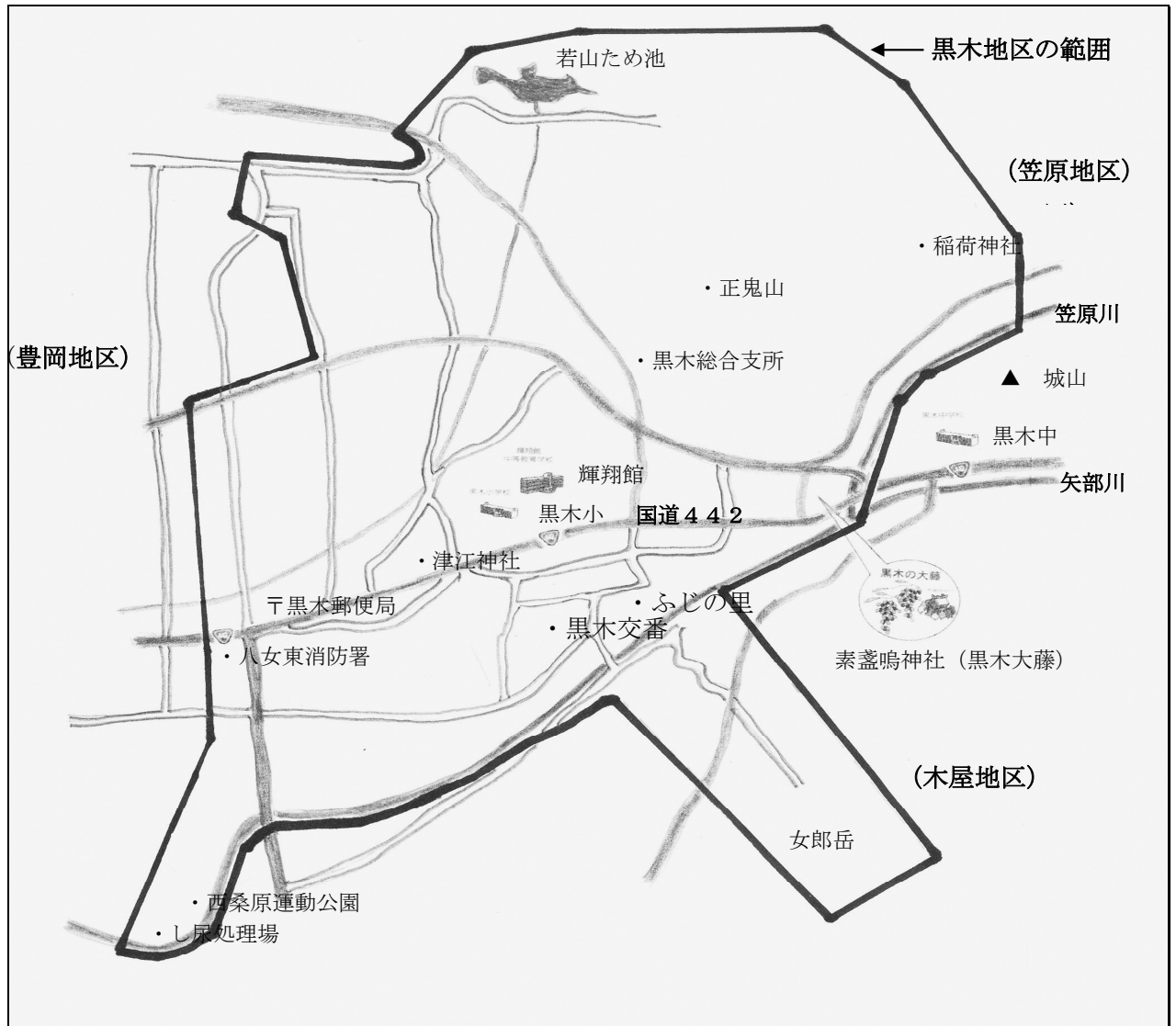
その後、「昭和の大合併」によって昭和29年4月1日に黒木町、豊岡村、串毛村、木屋村、笠原村が合併、昭和32年3月31日に大淵村が編入合併して新「黒木町」が誕生したが、この合併を機に行われた行政区域の整理統合によって、黒木地区は9行政区となった。さらに、昭和46年には馬場区が黒木地区に編入され、昭和50年には西今区が世帯数の増加により西今区と谷蓮輪区に分かれたことにより、現在は11行政区で形成されています。

尚、黒木町は「平成の大合併」で平成22年2月1日に八女市へ編入合併しました。

Ⅳ．黒木地区の概況

（1）位置、地形、面積

八女市黒木町の中心部に位置し、黒木盆地として平坦な地域にあります。地区の南端を矢部川が東西に流れ木屋地区（一部中町区の女郎岳集落が入り込んでいる）と、東は笠原地区と西は豊岡地区と北は旧上陽町と境しています。面積は約5km²です。



(2) 人口、世帯数

平成25年3月31日現在の人口及び世帯数は、人口3,433人、世帯数1,178戸となっています。人口は、最も多かった昭和30年の4,618人から年々減少しており、最近の10年間の5年毎の人口推移と年齢階層別人口は次表のようになっています。

この表で、10年前との比較を見ると、特に減少率の高いのが中町区の31.5%、次いで下町区の23.6%で、逆に減少率の低いのが馬場区の3.3%となっています。

さらに、年齢階層別人口を見ると、0～14歳までの年少人口は、402人の11.7%で、全国の平均12.9%と比較すると1.2%低くなっています。中でも、中町区の年少人口の割合は占める割合は低く4.0%となっています。

また、65歳以上の老年人口は、1,076人の31.3%で、全国の平均24.7%と比較すると6.6%と高くなっています。特に、東桑原区と西上町区では、老年人口の占める割合が40%を超えています。

行政区別人口及び世帯数の推移

行政区	平成15年(15年3月末)				平成20年(20年3月末)				平成25年(25年3月末)			
	世帯数	人 口 (人)			世帯数	人 口 (人)			世帯数	人 口 (人)		
		男	女	計		男	女	計		男	女	計
東上町	36	54	55	109	37	52	54	106	34	46	55	101
西上町	47	63	87	150	50	57	83	140	51	53	71	124
中 町	56	103	116	219	54	84	100	184	49	65	85	150
下 町	56	88	102	190	47	72	76	148	48	67	78	145
栄 町	75	121	137	258	75	118	131	249	78	116	123	239
東 今	113	163	177	340	113	164	173	337	109	134	163	297
西 今	170	261	294	555	172	255	270	525	169	224	246	470
谷蓮輪	220	306	397	703	210	279	354	633	218	264	338	602
東桑原	80	111	123	234	86	107	110	217	73	88	106	194
西桑原	156	289	305	594	158	250	281	531	157	236	270	506
馬 場	178	282	344	626	193	293	374	667	192	275	330	605
合 計	1,187	1,841	2,137	3,978	1,195	1,731	2,006	3,737	1,178	1,568	1,865	3,433

行政区別、年齢階層別人口

【平成 25 年 3 月 31 日現在】

行政区名	年少人口 0～14歳 (人)	人口比率 (%)	生産年齢 人口15～ 64歳 (人)	人口比率 (%)	老年人口 65歳以上 (人)	人口比率 (%)	合計 (人)
東上町	13	12.9	50	49.5	38	37.6	101
西上町	9	7.3	62	50.0	53	42.7	124
中 町	6	4.0	94	62.7	50	33.3	150
下 町	12	8.3	81	55.9	52	35.9	145
栄 町	23	9.6	130	54.4	86	36.0	239
東 今	23	7.7	156	52.5	118	39.7	297
西 今	68	14.5	284	60.4	118	25.1	470
谷蓮輪	100	16.6	332	55.1	170	28.2	602
東桑原	21	10.8	83	42.8	90	46.4	194
西桑原	60	11.9	315	62.3	131	25.9	506
馬 場	67	11.1	368	60.8	170	28.1	605
計	402	11.7	1,955	56.9	1,076	31.3	3,433

V. アンケートの結果

1. 配布、回収概要

①配布方法

アンケートの配布は、18 歳以上（平成 24 年 12 月 31 日現在）すべての方をお願いいたしました。

②回収方法

アンケートの回収は、各隣組長さんが平成 25 年 2 月 15 日までに、回収していただきました。

③回収状況

【行政区別】

行政区名	配布数	回収数	回収率	行政区名	配布数	回収数	回収率
東上町	81	64	79%	西今	389	267	69%
西上町	113	80	71%	谷蓮輪	490	397	81%
中町	139	115	83%	東桑原	170	154	91%
下町	120	88	73%	西桑原	419	330	79%
栄町	206	150	73%	馬場	527	411	78%
東今	269	207	77%	合 計	2,923	2,263	77%

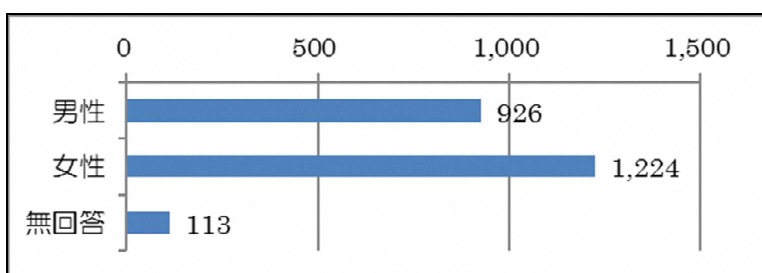
【年齢別】

行政区名	18-29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以上	年 齢 不 明	合 計
東上町	5	4	7	9	12	14	11	2	64
西上町	7	3	10	8	12	17	20	3	80
中町	13	7	10	25	22	19	17	2	115
下町	7	4	20	11	12	23	10	1	88
栄町	18	6	15	29	24	38	18	2	150
東今	21	19	21	28	46	39	31	2	207
西今	15	28	43	50	57	46	25	3	267
谷蓮輪	43	55	53	57	66	64	56	3	397
東桑原	7	14	20	15	29	29	37	3	154
西桑原	26	35	50	80	57	47	29	6	330
馬場	49	42	59	67	99	54	37	4	411
合 計	211	217	308	379	436	390	291	31	2,263

2. 集計結果

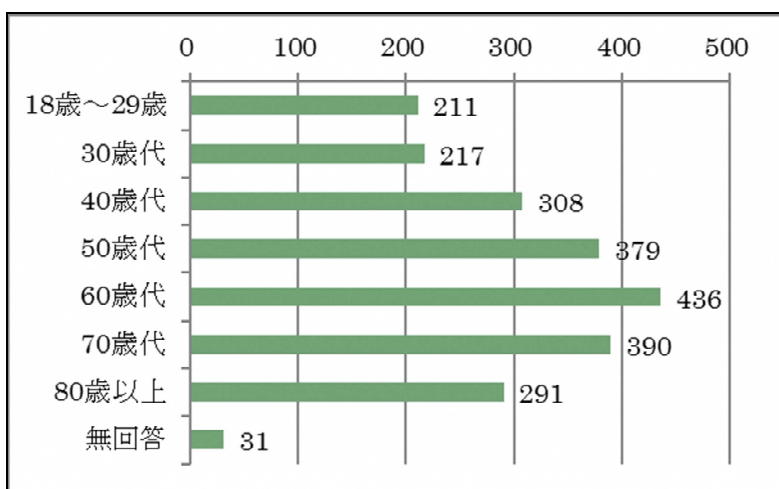
質問 1 あなたご自身についてお尋ねします。

【性別】



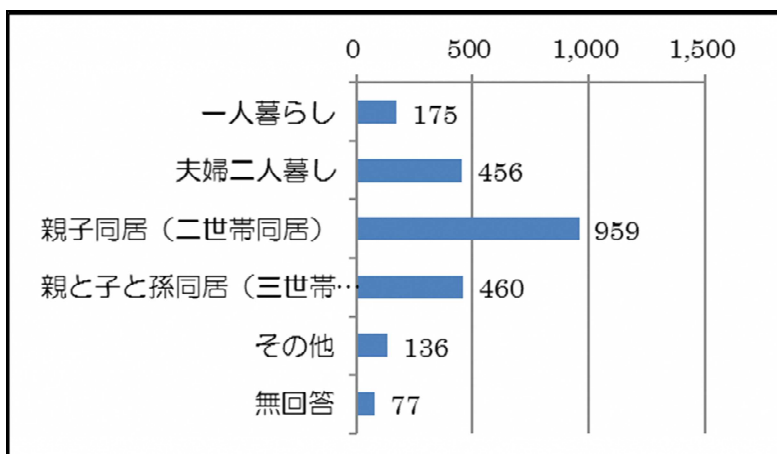
男女別の回答者数は、女性が 54.1%、男性が 40.9%、性別不明が 5%となっており、女性回答者数が半分以上を占めている。

【年齢】

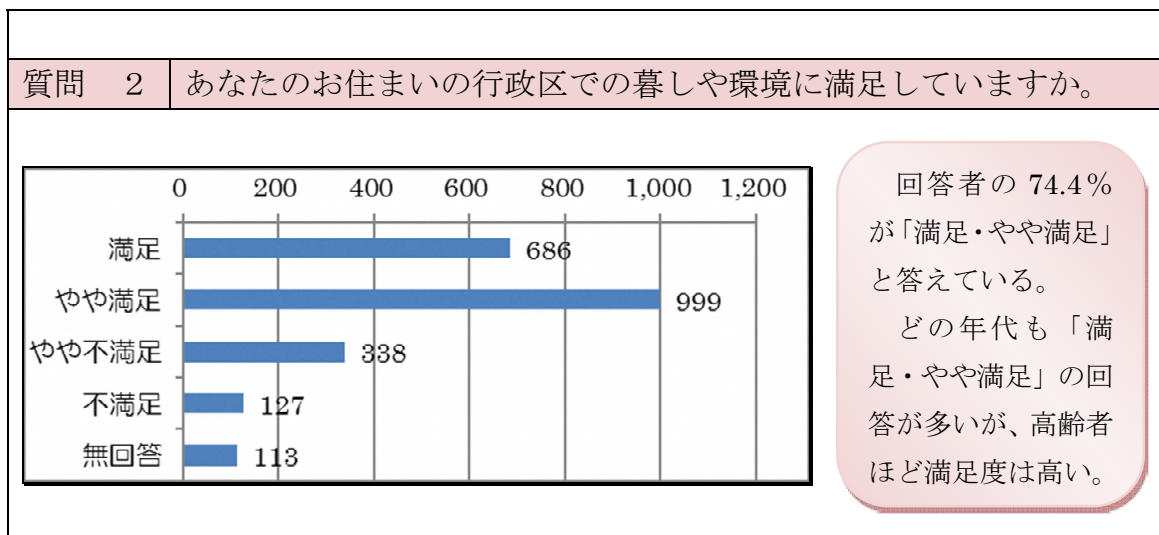


年代別の回答者数は、60歳代が一番多く、次に70歳代と続いている。また、全体の 50% (49.4%) 近くが、60歳以上の高齢者の回答数となっている。

【世帯構成】



回答者の世帯構成は、親子同居（二世帯同居）の回答者が一番多く、次に三世帯同居、夫婦二人暮らしと続いているが、その差はわずかである。



《年代別満足度》

項 目	18 歳～29 歳		30 歳代		40 歳代		50 歳代	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
満足	50	23.7	34	15.7	64	20.8	102	26.9
やや満足	84	39.8	115	53.0	162	52.6	163	43.0
やや不満足	43	20.4	43	19.8	51	16.6	72	19.0
不満足	20	9.5	17	7.8	15	4.9	26	6.9
未記入	14	6.6	8	3.7	16	5.2	16	4.2
合計	211	100.0	217	100.0	308	100.0	379	100.0

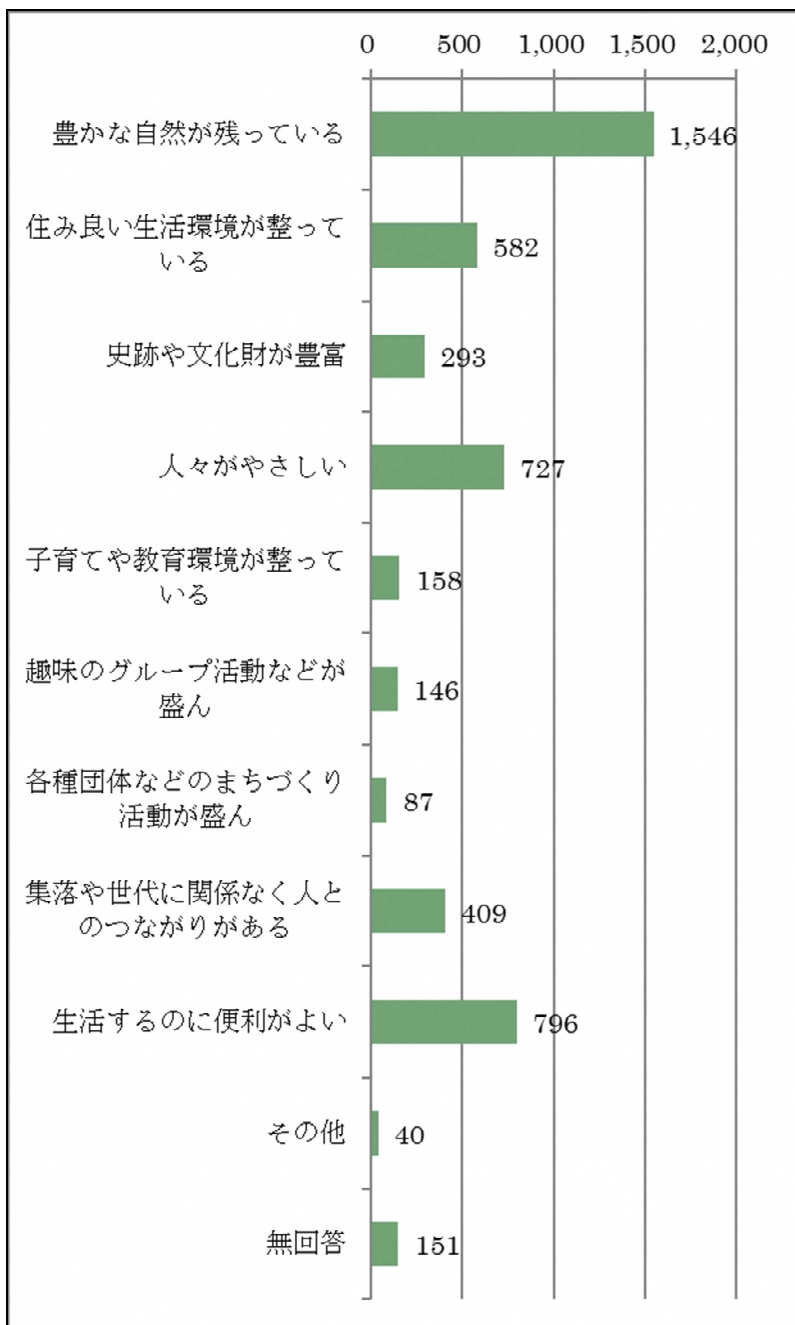
項 目	60 歳代		70 歳代		80 歳以上		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
満足	132	30.3	161	41.3	133	45.7	686	30.3
やや満足	199	45.6	168	43.1	104	35.7	999	44.1
やや不満足	62	14.2	39	10.0	24	8.2	338	14.9
不満足	22	5.0	12	3.1	13	4.5	127	5.6
未記入	21	4.8	10	2.6	17	5.8	113	5.0
合計	436	100.0	390	100.0	291	100.0	2,263	100.0

※合計数には年齢不明者（31 名）の回答分も含まれます。

※年齢不明の回答数

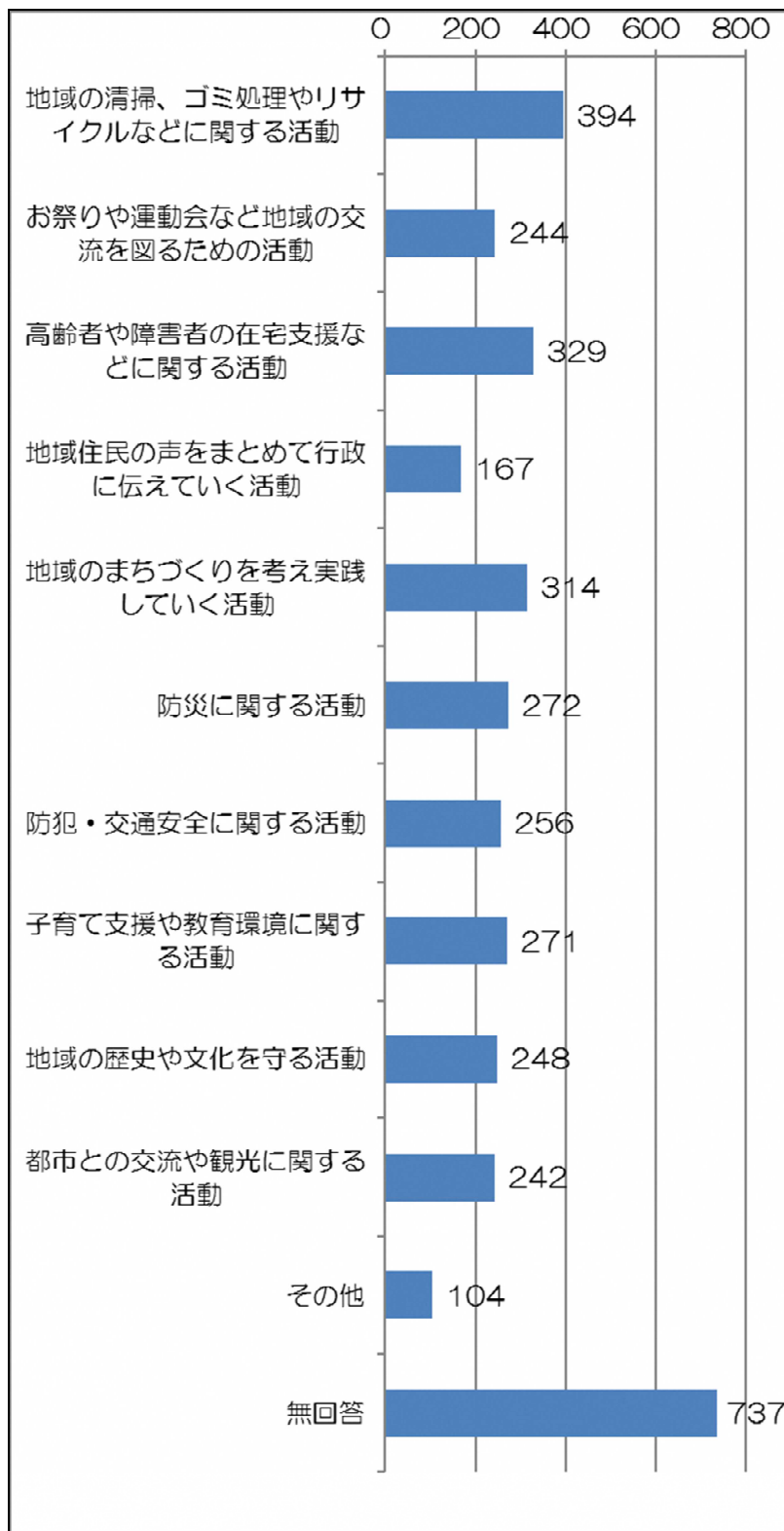
項目	回答数	割合		回答数	割合
満足	10	32.3	不満足	2	6.5
やや満足	4	12.9	未記入	11	35.5
やや不満足	4	12.9	合計	31	100.0

質問 3 大切にしていきたい黒木地区の良さは何ですか。



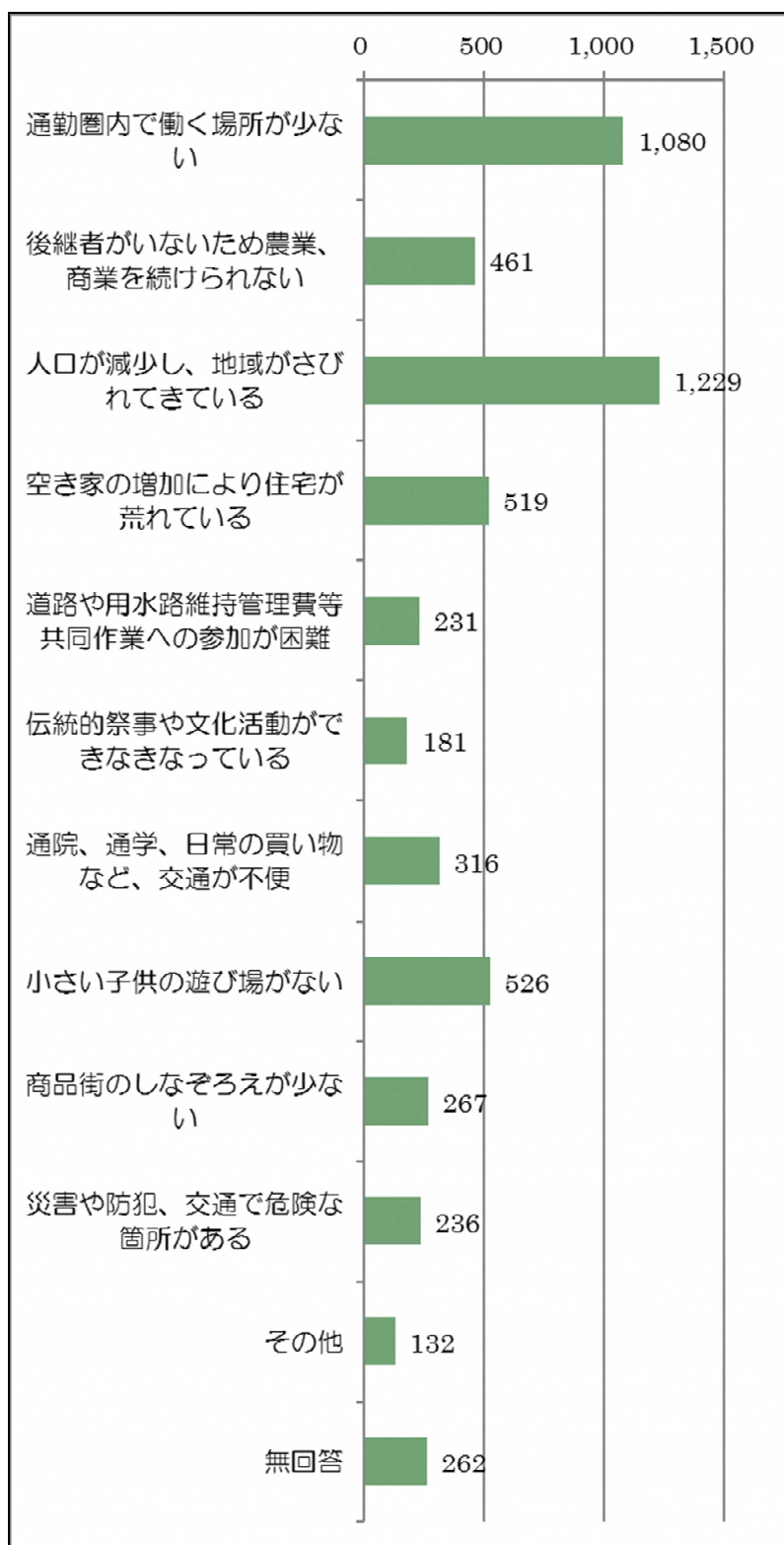
黒木地区のよさや大切にしていきたい事は、「豊かな自然が残っている」が圧倒的に多く、31.3%の回答があり、「生活するのに便利がよい」「人々がやさしい」と、続いている。

質問 5 あなたが、今後参加したいと思う活動は。



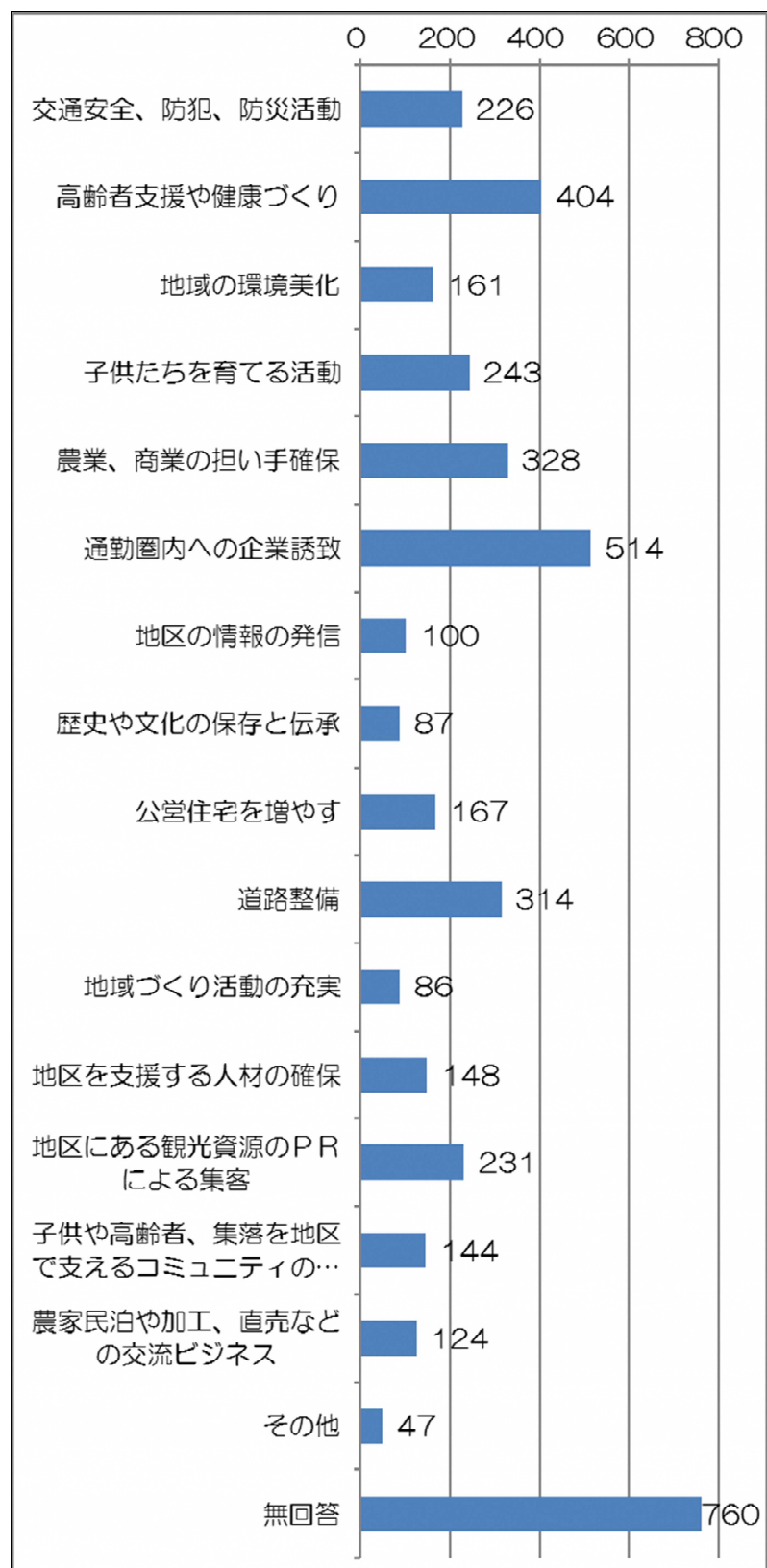
参加したい活動については、「地域の清掃、ゴミ処理やリサイクルなどに関する活動」が一番多く、「高齢者や障害者の在宅支援などに関する活動」「地域のまちづくりを考え実践していく活動」が続いている。

質問 6 黒木地区で生活を維持する上で、不便や不安を感じることは何ですか。



「人口が減少し、地域がさびれてきている」の回答が一番多く、特に町区が高い数字を示している。次に、「通勤圏内で働く場所が少ない」となっている。

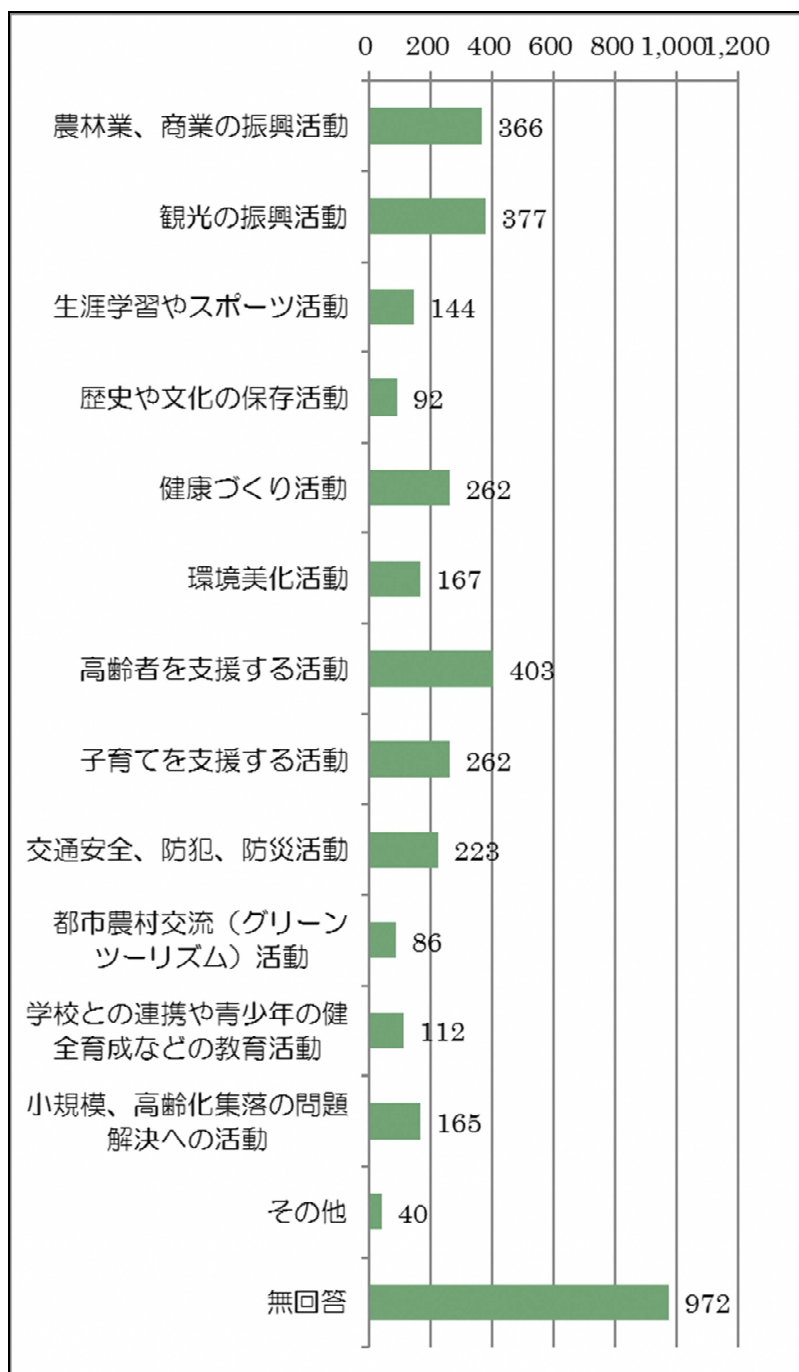
質問 7 黒木地区では何が課題といますか。



黒木地区の課題については、「通勤圏内への企業誘致」が一番多く、「高齢者支援や健康づくり」「農業、商業の担い手確保」と続いている。

30歳代では「子どもたちを育てる活動」、40歳代では「公営住宅を増やす」が高い数字を示している。

質問 8 黒木地区の活性化や安心して暮らせるまちづくりを行っていくためには、どのような活動に力を入れて行けば良いと思いますか。



「高齢者を支援する活動」が一番多く、2番目に「観光の振興活動」3番目に「農林業、商業の振興活動」と続いている。

「子育てを支援する活動」では、30歳代と40歳代が、「健康づくり活動」では70歳代が、「都市農村交流活動」では60歳代がそれぞれ高い数字を示している。

VI. 現状と課題

1. 環境美化と安心安全づくり

テーマ	現状と課題
環境美化活動	◇シバ桜は自慢できる資源ではあるが、手入れや管理等については課題となっている。 ◇442号バイパス道路沿いは、花でとても美しい一面もあるが、雑草も多いため、地域で定期的に除草する必要がある。 ◇町並みの美化と周辺道路の清掃などを通して、観光の振興と一体となった誘客効果の拡大が求められている。 ◇河川の堆積土砂及び水草等の除去が急がれる。 ◇犬の散歩において、フンを放置したままの飼い主が多い。また、ゴミのポイ捨てが目立ち不法投棄も多い。住民一人一人の環境に対する意識の向上への取組みが求められている。

テーマ	現状と課題
交通安全、防犯、防災活動	◇アスタラビスタ・コメリ前の道路における信号機設置や、横断歩道の表示を求める声が多い。 ◇歩行者、自転車、自動車の通行に危険な箇所がある。 ◇幅員が狭く、見通しの悪い道路や歩道がない道路が多いため、高齢者や子供などの安全確保に向けた対策が求められる。 ◇防犯灯・街路灯の設置要望が多い。 ◇空き家が増えて、防犯上心配。 ◇オレオレ詐欺等の犯罪や不審者への不安が現実的な昨今、高齢者や子供に対し、情報提供や指導が必要となってきた。 ◇去年の豪雨災害の不安を訴えると共に、復旧に対する要望も多い。 ◇地域住民参加の防火、防災活動の充実。 ◇若山堤など災害に繋がる恐れのある箇所がいくつかある。

テーマ	現状と課題
生涯学習 スポーツ	◇生涯学習にしてもスポーツにしても、受け入れる場所がない。 気軽に集まれる施設や体育館の要望が多い。 ◇公園や遊ぶ場所が少ない。 ◇高齢者は足腰が弱ってきているので、自己で予防していくような施設があればよい。 ◇生涯学習の講座は昼間が多いため、仕事をしている者は参加したくても参加できない。男の料理教室を夜開催してほしい。生涯学習の時間帯を夜の部も考えてほしい、など多様な利用者への対応が求められている。

2. 地域のふれあいと健康づくり

テーマ	現状と課題
健康づくり 活動	◇健康づくりの関心は高く、ジョギング・体操・スポーツ・食生活など、積極的に取り組んでいる人と、参加したいが、気軽に参加できる機会と場所がないとの理由で消極的になっている人がある。 ◇ラジオ体操など行っている人もいるが、誰でも参加できる内容と環境づくりが求められている。 ◇健康教室開催（食生活や運動、生活習慣病予防ほか）への要望が多い。

テーマ	現状と課題
高齢者を支援 する活動	◇高齢者世帯が多くなり、不自由、不便、不安を訴える高齢者が多くなってきた。 ◇高齢者の不安は、健康、経済、毎日の生活、趣味、人間関係など多種多様に渡っており、安心して暮らせる為の支援を地域でどう解決していくか、難しい問題を抱えている ◇いきいきサロンなどもあるが、費用と回数に不満があるようで、サロンの支援と、もっと気軽に集まれる場所の要望がある。 ◇高齢者も働きたいとの希望があり、経済面と生きがいへの支援が必要と考えられる。 ◇独居老人等の増加に伴い、地域あげての安否確認の方法と体制が急がれる。 ◇高齢者にとって買い物は不便。（元商店街の店舗が閉まり、スーパーなどが遠くになった。）

3. 子育てと地域の関わり

テーマ	現状と課題
子育てを支援する活動	◇子供の数が減ってきていることへの背景として、若者の定住化促進への取組みの声が多く聞かれる。 ◇核家族化や共働き家庭など、生活スタイルも変化しており、子育て支援に対するニーズも個別化し、さまざまな要望やサービスを求めている。 ◇お年寄りの居場所づくりと子育て支援のコラボとして、世代間交流を進める意見が聞かれる。

テーマ	現状と課題
学校との連携や青少年の健全育成などの教育活動	◇少子高齢化に加え、外に出ない子供や高齢者も多く、ますます接点が少なくなってきた。 ◇地域ぐるみで子供達を育てる意識が薄れている中、高齢者と子供たちの交流を増やす事で、子供達を守り育てる環境づくりと高齢者の生きがいづくりが求められている。

4. 地域おこし

テーマ	現状と課題
農林業、商業 の振興活動	◇後継者がいなくなり農地が荒れてきている。(放棄地も多くなった) ◇きれいな山林も、中に入れば手入れの出来ていない杉林、竹林が目立つ。 間伐材の利用による産業（竹炭・建築材）と地元木材を生かした加工品作りが必要。 ◇農産物は豊富でありながら、担い手が少ない為、大変な労働を年配者が強いられている。(農業従事者＝高齢者) ◇農業従事者も低所得に悩み、離農して行く人が増えている。 ◇儲からないため、農業に魅力を感じる人がいない。後継者が育たない。 ◇農地の基盤整備がほとんど出来ていないし、効率の悪い農地では収益が上がらない。 ◇個々での対応が厳しくなってきた農業経営。組織化と企業化が必要となってきた。 ◇イノシシなど鳥獣の被害が多い。 ◇後継者の嫁不足。 ◇大型スーパーなどの進出で、メイン通りである商店街の活力が失われ、シャッター通りと化している。商店街の活性化が求められている。 ◇商店街の店舗は閉まり後継者もない状況で、その為、空き店舗となっている。空き店舗の再生が必要。

テーマ	現状と課題
観光の振興活動	◇藤まつりの時期は町外から集客できているが、一年を通して集客できるような観光資源の開発が必要。 ◇町のPRはしているが、季節的で忘れがちになっている。町には特産物や文化財をはじめ、自慢できるものや、魅力ある資源がたくさんあるのにPR不足。もっと積極的なPRとホームページの充実が求められている。 ◇観光客が一日歩いて見て回れるような場所が必要。（観光スポットが少ない） ◇名所や特産物等の由来・歴史や案内地図等の標示が充分でない為、黒木を知ってもらう努力が必要。 ◇観光スポットの維持管理（手入れ）は、住民が協力する必要がある。 ◇大勢の観光客が来ても、食事の場所が少ない。また気軽に立ち寄れて食事する場所も少ない。 ◇黒木町には地元ならではの料理があるが、新たな食文化を通して集客を図る。 ◇ふるさと日曜市が定着しているが、「道の駅」の建設で産業と観光の更なる振興への取り組み。 ◇グリーンピア八女をもっと活用し、宿泊できる黒木町として集客を図る取り組み。

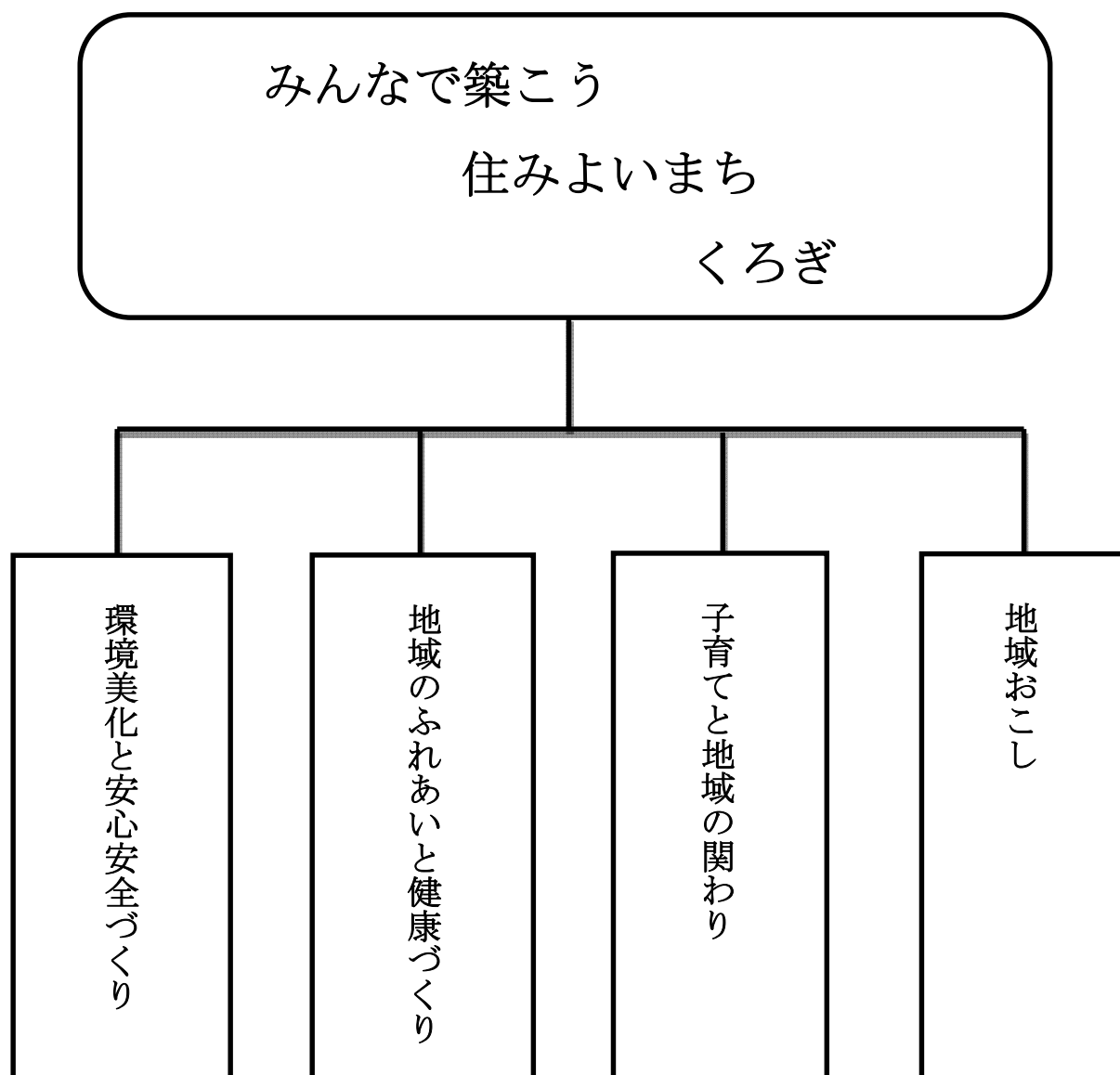
テーマ	現状と課題
歴史や文化の保存活動	◇町にはたくさんの歴史、文化が残されているが、今の子供たちは自分の住んでいる町の事を知らない。教える人がいない。歴史や文化を伝える語り部の育成が求められる。 ◇歴史や文化をもっと子供たちに伝承する機会と場所が必要。 ◇文化財の案内、説明板が古くわかりにくい。 ◇歴史文化を表現した記念碑など、きちんと紹介すると共に、歴史に残る遺跡の保護と整備が必要。

テーマ	現状と課題
都市農村交流（グリーンツーリズム）活動	◇黒木にはグリーンピア八女もあり、豊かな自然（地域資源）を生かした都市との交流についても、多面的な項目に亘り提案が聞かれる。 ◇黒木の特産物・素材を軸とした商品（加工品）や食の開発と観光、体験（活動）など、経済活動を通して地域活性化への取り組みが求められる。

VII. 基本施策と取組み

《 まちづくりの目標 》

黒木地区の課題を解決し住みよいまちにするために、「みんなで築こう 住みよいまち くろぎ」を目標に定めて4項目の取組みを実施していきます。



1. 環境美化と安心安全づくり

自然豊かな環境の中で、安心・安全に暮せるまちづくり

■施策・事業

自然豊かな環境の中で、安心・安全に暮せるまちづくり	◆環境美化の意識啓発活動
	◆きれいなまちづくり大作戦
	◆自然の景観を守る地域づくり
	◆交通安全の推進
	◆防犯灯の設置

■具体的取組み

施策	具体的な取組み	実施主体			組む すぐに取り りながら	少し案を練 間をかけて	じっくり時
		行政	協働	住民			
環境美化の意識活動啓発	ゴミの減量化とリサイクル活動の推進			○	○		
	不法投棄対策として看板やのぼりの設置		○			○	
	犬のフン放置対策として、飼い主に誓約書を提出させる			○	○		
きれいなまちづくり大作戦	地域での道路愛護の継続			○	○		
	河川の除草と浚渫		○			○	
	花いっぱい運動			○	○		
自然の景観を守る地域づくり	環境問題学習会と意識啓発活動			○		○	

交通安全の推進	信号機・横断歩道設置 道路改良・整備	○					○
	警察署と連携した交通安全教室の開催		○		○		
防犯灯の設置	防犯灯の設置と管理			○		○	

2. 地域のふれあいと健康づくり

健康でふれあい、共に支え助け合うまちづくり

■施策・事業

健康でふれあい、共に支え助け合うまちづくり	◆生涯学習やスポーツの推進
	◆健康づくり活動
	◆高齢者支援の充実

■具体的取組み

施策	具体的な取組み	実施主体			すぐに取り組む	少し案を練りながら	かけてじっくり時間を
		行政	協働	住民			
生涯学習やスポーツの推進	生涯学習講座の充実	○			○		
健康づくり活動	気軽に参加できる健康づくり活動の創設			○		○	
	健康教室の開催			○		○	
	ふじの里の有効利用			○		○	
高齢者支援の充実	いきいきサロンの充実			○	○		
	高齢者の生きがい支援	○				○	
	高齢者の憩いの場、交流の場創設			○		○	
	独居老人等の安否確認		○			○	
	高齢者の買い物代行制度			○			○

3. 子育てと地域の関わり

次代を担う子どもを守り、育むまちづくり

■施策・事業

次代を担う子どもを守り、育むまちづくり	◆世代間交流と連携
	◆地域で見守り育てる環境づくり
	◆若者の定住促進
	◆学校との連携

■具体的取組み

施策	具体的な取組み	実施主体			すぐに取り組む	少し案を練りながら	じっくり時間をかけて
		行政	協働	住民			
世代間交流と連携	高齢者と子どもとの連携活動の促進			○	○		
地域で見守り育てる環境づくり	地域全体での子育て支援			○	○		
	地区公民館での児童活動促進			○		○	
	農業体験を通した都市部児童との交流活動の導入		○				○
若者の定住促進	住環境の整備促進	○					○
	交通環境の整備促進	○					○
	住宅等情報の提供			○			○
	就労の場の創設	○					○
学校との連携	高齢者の学校行事への参加		○			○	

4. 地域おこし

歴史文化の価値を認め、地域資源を生かしたまちづくり

■施策・事業

歴史文化の価値を認め、地域資源を生かしたまちづくり	◆耕作放棄地の活用
	◆有機農業の推進
	◆後継者対策
	◆ご当地グルメ開発
	◆観光 PR の向上
	◆商店街の活性化
	◆文化の継承

■具体的取組み

施策	具体的な取組み	実施主体			すぐに取り組む	少し案を練りながら	じっくり時間をかけて
		行政	協働	住民			
耕作放棄地の活用	学校等への農地貸与		○		○		
	有害鳥獣対策	○					
有機農業の推進	堆肥を活用した有機農業の推進		○				○
後継者対策	男女出会いの場の機会づくり			○		○	
ご当地グルメ開発	地域産品を活用した商品の開発			○		○	
観光 PR の向上	観光施設の PR 活動		○			○	
	観光スポットの維持管理			○	○		
	文化財、観光施設のサイン計画の推進	○				○	
商店街の活性化	共同駐車場の整備		○			○	
文化の継承	郷土の歴史や伝統行事の保存と継承			○	○		

黒木地区振興計画

発 行 平成 26 年 4 月 10 日

企画・編集 黒木地区自治運営協議会

*この計画書は、八女市地域づくり提案事業として、市の補助金を受け作成しました。